

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地		
専門学校日産愛媛 自動車大学校		昭和52年8月1日		分部 庸子		〒790-0065 愛媛県松山市宮西2丁目8番27 (電話) 089-925-0103		
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地		
学校法人愛自学園		平成30年4月2日		岡 豊		〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目2番15号 (電話) 089-927-4053		
目 的	自動車整備に関する専門的技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成することを目的とする。							
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与		
工業	専門課程	自動車整備科	2年(昼)	1,850 単位時間 (又は単位)	平成7年1月1日 文部科学省告示 第84号			
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技		
		910 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1,283 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)		
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
130人		115人		8人		人		8人
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 規定出席率の充足、筆記試験、実習試験、授業態度、提出物 成績表記：優(80点以上)良(60点以上)可(60点未満)			
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月28日～8月26日 ■冬 季：12月22日～1月6日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、60点以上で履修とする。 全ての教科において既定出席率を満たし、未履修がなければ進級・卒業を認める。			
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 本人との面談、保護者への連絡、場合によっては家庭訪問等で面談を行い、改善指導を行う。また、学生の動向に関する情報は共有し、注視している。			課外活動	■課外活動の種類 スーパー耐久レース ■サークル活動 (有・無)			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 日産販売会社を中心とした自動車業界 ■就職率 <sup>*1</sup> 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>*2</sup> 100% (平成30年度卒業者に関する 平成30年3月時点の情報)			主な資格・検定	・2級ガソリン自動車整備士 ・2級ジーゼル自動車整備士 ・損害保険募集人 ・損害保険代理店商品資格			

中途退学の現状	<p>■中途退学者 7名 ■中退率 8.0%</p> <p>平成30年4月 1日在学者 87名 (平成 30年 4月入学者を含む)</p> <p>平成31年3月31日在学者 80名 (平成 31年 3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>学業不振、経済的理由、進路変更</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>定期的な個人面談</p>
ホームページ	URL: <a href="http://www.nissan-gakuen.ac.jp">http://www.nissan-gakuen.ac.jp</a>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、要請内容を把握し、具体的な授業科目や授業内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し、授業編成に反映する。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成30年6月24日現在

名 前	所 属
中原 真也	愛媛大学 教授 工学博士
北村 正人	日産自動車(株) アフターセールスリテンション部 主担
樋口 俊幸	日産プリンス愛媛販売(株) サービス部課長
田村 宏	愛媛日産自動車(株) 工場長
鳥井 英雄	日産・自動車大学校 教育企画部部長
分部 庸子	日産愛媛自動車大学校 校長
高橋 潔	日産愛媛自動車大学校 教育部長

### (開催日時)

第1回 平成30年3月5日 10:20～10:40

第2回 平成30年5月17日 13:00～15:00

第3回 平成30年7月19日 17:00～18:00

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

しっかりした基礎的技術を修得することをベースに、就職後に必要とされるお客様対応技術、電気自動車を中心とした新技術など、実践的かつ専門的な実習を、企業等の要請に基づいて実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ステアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーステアリングの構造・作動を理解する。</li> <li>・パワーステアリングの点検、故障が判断できる。</li> <li>・P/Sフルードのエア抜きが正しくできる。</li> <li>・ステアリング関連部品の脱着ができる。</li> </ul>	日産自動車株式会社
車検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定2年点検を基準時間で確実にこなせる。</li> <li>・定期点検記録簿を漏れなく記入できる。</li> <li>・整備結果説明が、スムーズに行うことができる。</li> <li>・補器ベルトの交換作業、良否判定ができる。</li> <li>・リヤライニングの交換が出来る。</li> </ul>	日産自動車株式会社
エアコン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍サイクルの圧力点検と温度の測定ができる</li> <li>・冷媒ガスの回収と充填ができる</li> <li>・ファンモータ回路、コンプレッサ回路、電動ファン回路の点検ができる</li> <li>・配線図より回路を抜き出し、回路の流れを理解する</li> <li>・不具合についての点検方法がわかる。</li> </ul>	日産自動車株式会社

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、企業等と連携し、必要となる専門分野に関する知識、技術、技能などを教員が十分に理解・習得し、授業内容・方法の改善工夫等をして授業が実施できるよう、「教育研修」を行う。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成30年6月24日現在

名 前	所 属
斎藤 眞一	愛媛県軽自動車協会 専務理事
安野 一巳	愛媛日産自動車(株) サービス支援課課長
新田 睦	松山聖陵高等学校 進路課長
塩濱 登	前町内会会長
藤坂 定生	整備科10期卒業生 大協車両(株) 社長
分部 庸子	日産愛媛自動車大学校 学校長
高橋 潔	日産愛媛自動車大学校 教育部長
見谷 哲	日産愛媛自動車大学校 学生支援室室長 学生募集担当
西浦 進一	日産愛媛自動車大学校 科長 一級自動車工学科担当
小山 純	日産愛媛自動車大学校 科長 自動車整備科 担当

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.nissan-gakuen.ac.jp>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL: <http://www.nissan-gakuen.ac.jp>

(別紙様式2)

## 授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車工学Ⅰ	自動車の基本的な構造、構成部品を理解と、力学や数学、図面などの理解を図る。	1通	70		○			○		○		
○			エンジン構造Ⅰ	4ストローク1サイクルガソリンエンジンおよびディーゼルエンジンの構造、作動(本体、潤滑、冷却、制御等)の理解。	1通	86		○			○		○		
○			シャシ構造	動力伝達装置(トランスミッション、ディファレンシャル、サスペンション等)を構成する各機構の構造、差動の理解。	1通	94		○			○		○		
○			電装品構造	自動車の電気・電子の基礎理論と計算、計器・装置(充電、始動、点火等)の構造、差動の理解。	1通	65		○			○		○		
○			整備機器取扱Ⅰ	自動車を整備する上での工具、測定具(ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ等)の構造、取り扱い、保守等の理解。	1前	22		○			○		○		
○			導入実習	自動車を整備する環境(実習車・実習場・整備機器など)を理解する。	1前	3					○	○		○	
○			機械工作	1. 安全作業、自動車整備における計測作業の必要性、重要性を理解する。 2. 各計測機器の正しい取扱、各測定器の正しい読み取り。	1前	42					○	○		○	
○			電気計測	1. オームの法則を使った、回路の計算と、抵抗値、電流値、電圧値の推理。 2. サーキット・テスタによる回路の測定。	1前	42					○	○		○	
○			エンジン分解組立	1. 分解作業によりエンジンの構造を理解し、分解した部品の作動役割を理解する。 2. 組立作業により各部品の締め付けトルクを理解する。	1前	42					○	○		○	
○			車両取扱・日常点検整備	1. ジャッキアップの作業方法と、そのときの注意点を理解させ、危険予知ができる。 2. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解させる。 3. 基本的な点検の必要性を理解し、点検及び交換作業・良否判定ができる。	1前	42					○	○		○	
○			パワートレイン脱着・分解組立	1. クラッチの分解組立及び調整。 2. クラッチの構造及び作動が理解できる。 3. 車両からトランスミッション及びクラッチの脱着。 4. クラッチの遊びや不具合現象を理解。	1前	42					○	○		○	○
○			エンジン分解組立・点検整備	1. エンジンの分解始動をするなかで、安全作業を知る。 2. バルブクリアランス、ファンベルトの点検調整。 3. オイルクリアランス、冷却装置、潤滑装置の概要理解と点検。 4. バルブタイミングの理解。	1前	42					○	○		○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			制動装置点検整備	1. ディスク・ブレーキの構造と部品名称の理解と整備方法を学習する。 2. ドラム・ブレーキの構造と部品名称の理解と整備方法を学習する。 3. ブレーキ・フルードの交換手順を学習する。	1前	42			○	○		○			○
○			ボデー電装Ⅰ	1. 配線図集の使い方、電気装置の基本的な点検方法の習得。 2. 電装ボードを使用し、電気の流れを系統立てて確認する方法を学ぶ。 3. 各部の電圧の掛かり方や抵抗値の測定結果により、故障診断の考え方を学ぶ。	1前	42			○	○		○			
○			エンジン電装	1. 始動装置、点火装置、充電装置の構造・点検方法を学習する	1後	42			○	○		○			
○			ボデー電装Ⅱ	1. 配線図集の使い方、電気装置の実践的な点検方法の習得。 2. 実車を使用し、実践的な環境で電気の流れを系統立てて確認する方法を学ぶ。 3. 各部の電圧の掛かり方や抵抗値の測定結果により、実践的な故障診断を学ぶ。	1後	42			○	○		○			○
○			懸架装置	1. 独立懸架式と車軸懸架式の構造を理解。 2. サスペンション（前・後）の脱着作業。	1後	42			○	○		○			
○			ステアリング・デフ装置	【ステアリング機構】 1. ラック・ピニオン型パワー・ステアリングの脱着とステアリング装置全体の構造を理解。 2. ステアリング・ギヤ機構の種類及び調整方法の理解。 【デフ装置】 ファイナルギヤ、ディファレンシャル、トランスファ、ドライブシャフトの分解組立と、構造と差動の理解を深める。	1後	42			○	○		○			
○			電子制御装置Ⅰ	1. エンジン電子制御装置の構造を理解し、点検方法を学習する。 2. コンサルト（診断器）のデータモニタと自己診断。 3. 各センサの電源電圧の測定	1後	42			○	○		○			○
○			ジーゼルエンジン分解組立	1. ジーゼルエンジンの分解、組み付け、始動をする。 2. エンジン本体の主要構成部品の名称と役割を理解する。 3. ジーゼルエンジン特有の整備技術を学ぶ。 4. バルブクリアランスの測定、調整が出来る。 5. シリンダライナ、ピストンの突き出し量が測定出来る。	1後	42			○	○		○			
○			法定1年点検Ⅰ	1. 自家用乗用車の法定1年点検ができる。 2. 点検整備記録簿が作成できる。	1後	42			○	○		○			○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			整備演習Ⅰ	1. 自家用乗用車の法定1年点検ができる。 2. 点検整備記録簿が作成できる。 3. 基本的な受け付け・納車説明ができる。	1後	42			○	○	○	○			○
○			TS育成1	販社に求められるテクニカルスタッフ（TS）の育成を図る。	1通	33		○			○		○		
○			合宿研修	合宿を通じて規律、ルール、コミュニケーションを学び、クラスという1つの「チーム」としての一体感をも醸成する。	1前	21		○				○	○		
○			販売会社見学	販売会社では実際にどのような仕事をするのか、テクニカルスタッフとして求められるものは何か、また社会に出るまでにしておかなければならないことは何かなど「現場」を知る。あわせて販売会社の関連企業も見学しバリューチェーンの仕組みも学ぶ。	1前	7		○			○	○	○		
○			就職育成	学生からの脱却を図り、社会人として自分が希望する販売会社から内定を頂くためにすべきこと、マナーなどを学ぶ。役員や卒業生の講話から販売会社で求められる整備士像を学ぶ。	1通	21		○			○		○		
○			スーパー耐久1	レーシングチームによる、レースプロジェクトの理解・レーシングカーの理解を行う。	1前	3		○			○		○		
		○	スーパー耐久2	プロ意識の醸成、即ち「チャレンジ」「チームワーク」「コミュニケーション」「責任と信頼」「継続」「感謝」という6つのキーワードを全員で共有し、実現していく。学生はレースという真剣勝負の場や前後の活動で、社会人として必要な【主体性】【チームワーク】【おもてなしの心】【感謝の気持ち】を磨くために、全員がチャレンジし、学びあうということを念頭に置いて活動する。	1前	28				○		○	○		
○			損害保険	整備士に必要な保険の知識を習得するとともに、基礎単位・自動車単位資格取得を目指す。	1前	16		○			○		○		
○			自動車工学Ⅱ	1. 自動車の性能に関わる項目を理解。 2. 国家2級試験 工学分野の計算問題を理解。	2通	50		○			○		○		
○			エンジン整備	ジーゼルエンジンを中心に燃料装置の構造、作動故障原因診断を理解する。	2通	72		○			○		○		
○			シャシ整備	ステアリング装置、ホイールアライメント、AT、アクスル及びサスペンション、ブレーキ等シャシ装置全般の構造、作動、整備（関連整備機器扱い含む）を理解。	2通	61		○			○		○		
○			電装品整備	充電装置の回路、バッテリー、エアコン、その他電装品の構造、作動、整備を理解。	2前	48		○			○		○		
○			自動車整備応用	全科目の総合的な復習を通し、2級自動車整備士資格取得に必要な内容の理解と文章問題の読解力をつける。	2後	48		○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			検査法規	1. 道路運送車両法の理解。 2. 検査に必要な自動車の保安基準に定められている数値の理解。	2前	45		○			○		○		
○			整備機器取扱Ⅱ	1. 自動車を整備する上での工具、測定具の構造、取り扱い、保守等の理解。 2. 自動車を検査する上での測定機器の構造、取扱、保守等の理解。	2前	16		○			○		○		
○			TS育成2	1. CS（顧客満足）を理解して実践できる。 2. お客様のお出迎え、整備結果説明、お見送りができる。 3. 顧客管理端末で見積書作成、整備に関するアドバイスができる。	2通	14		○			○		○		○
○			AT分解組立・点検	1. ATの分解組立と構成部品の構造及び作動の理解 2. 自己診断 3. ストールテスト、ATフルードの油量及び状態の点検	2前	42					○	○		○	
○			法定1年点検Ⅱ	1. 自家用乗用車の法定1年点検ができる。（基本点検と消耗部品交換） 2. 点検整備記録簿が作成できる。	2前	42					○	○		○	○
○			ジーゼル噴射ポンプ	1. 列型噴射ポンプの本体、ガバナ、タイマの各部の部品・構造・作動の理解。 2. ポンプ・テストによる、噴射ポンプ、ガバナの調整方法の理解。 3. インジェクションノズルの構造・作動・調整方法の理解 4. ジーゼル・エンジンの噴射時期の点検・調整方法の理解。 5. 黒煙テスターの構造・測定手順・判定の理解。	2前	42					○	○		○	
○			パワーステアリング・ホイールアライメント	【パワーステアリング】 1. パワーステアリングの構造・作動と点検・故障診断。 2. P/Sフルードのエア抜き 【ホイールアライメント】 1. CCKゲージによるホイールアライメントの測定方法・調整方法の理解。 2. 4輪アライメントテスターによるホイールアライメントの測定の理解。 3. フロントサスペンションの脱着・調整	2前	38					○	○		○	○
○			ボデー電装Ⅲ	1. ESMを用いた配線図集の使い方、電気装置の実践的な点検方法の習得。 2. ESMと実車を使用し、実践的な環境で電気の流れを系統立てて確認する方法を学ぶ。 3. 各部の電圧の掛かり方や抵抗値の測定結果により、実践的な故障診断を学ぶ。	2前	38					○	○		○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エアコン整備	1. ゲージマニホールドの取り扱い、真空引きとガス充填 2. 圧力点検、ファンモータ、コンプレッサ、電動ファン等の各回路点検 3. 不具合現象の点検方法	2前	38			○	○		○			○
○			整備演習Ⅲ	1. 自動車に取り付けられているバンパー、オプション部品、トリム類の脱着 2. ベルトの脱着、張り具合の調整 3. エンジンオイル、フィルタの交換 4. FASTを使った部品検索 5. タイヤチェンジャー、ホイールバランスを使った、タイヤ交換作業	2前	38			○	○		○			○
○			総合点検	1. 保証制度とメンテナンスノートの理解 2. 新車点検の理解。 3. 電気自動車の法定1年点検の理解	2後	38			○	○		○			○
○			整備演習Ⅳ	1. エンジン電子制御装置の点検方法、故障診断方法を学習する。 2. コンサルト（診断器）のデータモニタと自己診断を活用した故障診断。 3. 各センサ類の信号電圧の測定	2後	38			○	○		○			○
○			法定2年点検・車検Ⅰ-1	1. 自家用乗用車の法定2年点検ができる。 2. 点検整備記録簿が作成できる。	2後	38			○	○		○			○
○			法定2年点検・車検Ⅰ-2	1. 自家用乗用車の法定2年点検ができる。 2. 点検整備記録簿が作成できる。 3. 検査機器を使用し車両各部の状態を測定する 4. 保安基準に照らし合わせ、判定をする。	2後	38			○	○		○			○
○			整備演習Ⅴ	1. エンジン電子制御装置の点検方法、故障診断方法を学習する。 2. コンサルト（診断器）のデータモニタと自己診断を活用した故障診断。 3. 各センサ類の信号電圧の測定	2後	35			○	○		○			○
○			EV基礎教育	1. EV基礎教育の修了（低圧電気取り扱い者講習修了） 2. EV車両の高電遮断作業ができる。 3. 救急救命、AEDの取り扱いが出来る。 4. EV車両の概要が理解できる。	2後	35			○	○		○			○
○			法定2年点検・車検Ⅱ	1. 自家用乗用車の法定2年点検ができる。（基本点検・消耗部品の交換） 2. 点検整備記録簿が作成できる。	2後	35			○	○		○			○
○			TS3級整備	1. 代表的な消耗部品の判定・交換・調整作業ができる 2. OEM車の整備要領書の理解と作業ができる 3. キャブオーバー車の作業ができる	2後	35			○	○		○			○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	スーパー耐久3	プロ意識の醸成、即ち「チャレンジ」「チームワーク」「コミュニケーション」「責任と信頼」「継続」「感謝」という6つのキーワードを全員で共有し、実現していく。学生はレースという真剣勝負の場や前後の活動で、社会人として必要な【主体性】【チームワーク】【おもてなしの心】【感謝の気持ち】を磨くために、全員がチャレンジし、学びあうということを念頭に置いて活動する。	2前	28			○		○	○			
○			国内研修	日産自動車の重要生産拠点「九州工場見学」を通して、自動車製造の現場からその生産方法を学ぶとともに、日産自動車の歴史をも学ぶ。	2前	7		○				○	○		
○			日産3級	日産販売会社の整備士として修得すべき知識を学習する。	2後	35		○			○		○		
合計				55 科目					2,135	単位時間(		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学科は各期に二度、実習は各テーマ終了後に試験を実施し、60点以上で履修とする。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。